

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立
 - (1) 生徒実態の把握（学力、生活、健康）
 - (2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
 - (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
 - ア 生徒の実態やニーズを見据えた・募集人数の在り方と広報の検討
 - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化についての検討
 - ウ 単位修得のための環境整備

※ 運営委員会を毎週開催し、そのメンバーからなる校務運営推進チーム及び学校評価チームを機能的に運営し各種課題解決を図り平成 30 年度には 80%の処理をめざす。

※ 学力実態の把握に向け、各教科・科目において基礎テストの実施やレポート課題における解答等の分析を通して学力実態把握に努める。

※ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化について府教育委員会と協議を継続する。
- 2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上
 - (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
 - ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開
 - (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善
 - ア 一人で取り組むことができ、満足感の得られるレポートの作成及び添削指導
 - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
 - ウ 研究・公開スクーリングの実施
 - (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
 - ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立
 - イ スクーリングに出席できない生徒等のサポート体制

⇒NHK高校講座の利用やICTを活用したeラーニングによる教育システム（スタイル）の研究、試行、実施
 - ウ 生徒のニーズにあった開設科目の設定（スクラップアンドビルト）
 - エ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立
 - (4) 教職員研修の充実

※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価を毎年3%ずつ向上させH30年度には90%をめざす。

※ 1範囲の課題を修了した生徒の全教科平均の単位修得率について毎年3%ずつ向上させ、H30年度には80%をめざす。

※ 研究・公開スクーリングの教科毎の開催について、実施率を毎年100%とする。

※ 初任者等経験の少ない教職員の校外研修への積極的な参加や校内初任者研修の更なる充実を図り、平成30年度には「学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定率90%をめざす。
- 3 生徒支援と相談体制の強化・充実
 - (1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談・懇談や相談会の実施
 - (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び対応についての情報交換の充実
 - (3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施
 - (4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び特別支援委員会における「個別的教育支援計画」の作成
 - (5) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り

※ 生徒向け学校教育自己診断における「困った時に相談できる先生がいるか」の肯定的評価をH30年度には75%をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活はあなたにとって有意義なものになっていますか」の肯定的評価をH30年度には80%をめざす。
- 4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実
 - (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
 - (2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実及びそれに向けた教職員研修の実施
 - (3) 総合的な学習の時間の新たな目標設定と有効活用

※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう系統的な進路指導が行われている」の肯定的評価をH30年度には75%、また生徒の「将来の進路について考える機会がある」について肯定的評価をH30年度には80%をめざす。
- 5 情報発信・広報活動の充実及びICTを活用した校務の効率化
 - (1) 情報発信の充実
 - ア 学校HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容充実
 - イ インフォメーションディスプレイの活用
 - (2) 広報活動の充実
 - ア 学校説明会の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立</p>	<p>(1) 生徒実態の把握</p> <p>(2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化</p> <p>(3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し</p>	<p>(1) 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析結果を次年度の経営計画に十分に反映させるため実施時期を検討して実施する。 実施方法について、検討工夫し回答率の向上を図る。 入学生が通信制の学習を円滑に進められるよう、入学時早々のスクーリングにて基礎学力の把握（基礎テスト等）に取り組むとともに、レポート添削において生徒の学習状況を把握し学習支援の在り方について検討する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会を更に機能強化し、改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。 運営委員会メンバーを核とした校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの活動内容の充実を図る。 <p>(3)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立学校として府内唯一の通信制の生徒の実態を把握し、ニーズの再確認及び通信制の機能強化について、引き続き校内議論を進め、府教育委員会に伝える <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリング出席管理システムの安定的な運用及び生徒ニーズに合った更なるシステム開発。（生徒が各教科・科目のスクーリング出席状況をリアルタイムで把握でき、学習の進行管理の助けとなり、また、担任は生徒の学習進行状況を常時把握できるシステムの構築） 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断の回答率向上（H27年度は12.9%） 数・英での基礎テストの実施（中卒1年次での実施率H27年度100%） レポート課題における解答等の分析を通して、学習支援の在り方について検討した各教科からの報告による <p>(2) 運営委員会の毎週開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの取組内容とその件数（H27年度19回） <p>(3)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での検討（研修等）回数（H27年度2回） <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合ネットワーク上での運用 メンテナンスを組織として行う 	
	<p>2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上</p>	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成</p> <p>ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開</p> <p>(2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善</p> <p>ア 一人で取り組むことができる、満足感の得られるレポートの作成及び添削指導</p> <p>イ レポート作成に役立つスクーリングの展開</p> <p>ウ 研究・公開スクーリングの実施</p> <p>(3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入</p> <p>ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立</p> <p>イ スクーリングに出席できない生徒のサポート体制</p> <p>ウ 生徒のニーズにあった開設科目の設定（スクラップアンドビルド）</p> <p>エ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立</p> <p>(4) 教職員研修の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力」を育成するため、基礎的内容を分かりやすく学習できるよう新たに開設した科目の検証 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> H27年度に実施したレポート添削及びスクーリング評価の結果、学校教育自己診断結果の分析を通し、レポート作成及びスクーリング内容及び指導法の改善を行う 教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確化 レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討 <p>ウ 全スクーリングの公開化、教科内研究スクーリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリング見学月間の実施（年2回、6月、11月） 教科内研究スクーリング後に研究協議を全教科で実施する。（6月、11月） <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力充実のためスクーリングのない時間帯や夏季休業期間等を利用した取組みの検討・実施（補充・補習・集中スクーリング等）。 面接指導エリアの整備・充実 学習相談コーナーの設置・充実 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したe-ラーニングによる教育システムの試行 NHK高校講座のさらなる活用及びスクーリング代替の推進 <p>ウ 生徒のニーズの把握と開設科目基準の検討</p> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国・数・英の進学者対象講習の実施 <p>(4) ・レポート作成・添削、スクーリングの指導力等向上や生徒の基礎学力充実に向けた取組み内容の検討に関する校内研修の実施（7・1月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者等経験の少ない教員の授業力向上に向け、校外研究授業への積極的参加の奨励 校外研修参加教員による、報告会の実施 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の選択状況と自己診断での「レポートは自分で完成できる内容であるか」の肯定率の向上（H27年度89.9%） <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート添削評価3.1以上8割（H27年度R72%）、スクーリング評価3.3以上がそれぞれ全教員の9割以上（H27年度S91%）。 学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価が85%以上（H27年度R90%、S89%） <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国・社・数・理・体・芸・英・外・家・情（商・工）での実施率（100%）（H27年度100%） 見学感想票の提出率100%（H27年度100%） <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習会等への参加生徒数 自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている」の教員意識の向上（H27年度94%） <p>イ 取組みの実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> NHK高校講座のスクーリング代替実施の教科・科目数（H27年度1教科2科目） <p>ウ 新しく開設した科目及び閉講した科目の検証</p> <p>エ 講習会の開催と参加生徒数（H27年度42名）</p> <p>(4) 校内研修の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修の取組み内容及び実践に向けた取組み 研究授業への参加人数（回数）（H27年度49回） 研修報告会の件数（新規）

<p>3 生徒支援と相談体制の強化・充実</p>	<p>(1) 生徒及び保護者(未成年生徒の)との面談・懇談や相談会の実施</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び対応についての情報交換の充実</p> <p>(3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施</p> <p>(4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び特別支援に員会における「個別の教育支援計画の作成」</p> <p>(5) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り</p>	<p>(1) 生徒及び保護者との面談・懇談を行い、支援を必要とする生徒を抽出、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携した組織的な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中卒新入生の三者面談の実施 ・生徒の居場所づくりの一環として、精神保健福祉士等を配置した「ほとりカフェ」の効果的な運用 <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する。</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初(5、10月)に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かしていく。また、「保護者の会」との連携を密にして、ニーズの把握に努める。</p> <p>(4) 生徒問題行動発生時の組織的対応の構築と強化</p> <p>(5) 本校生を多く担当している専門医・SCや保護者と生徒の心身面に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室の環境整備と広報の充実 	<p>(1) 支援生徒数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援生徒の学習活動の進行状況 ・中卒新入生の三者面談・保護者面談実施率(H27年度31%) ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を5%アップさせる。(H27年度59%) <p>(2) (3) 研修・勉強会等実施内容</p> <p>(4) 生徒問題行動発生時の対応状況</p> <p>(5) 面談、相談回数 ケース会議の実施回数 (H27年度ケース会議5回、相談回数43回、SC面談回数30回)</p>	
<p>4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実に向けた教職員研修の実施</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し、A´ワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。(社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身につけるための講座を開設する。) ・教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会の実施 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者対象講習の実施 ・看護医療専門学校への進学希望者対象の説明会の実施 ・保護者向け進路説明会の開催 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア前教育として実施する講座の開設講座数及び講座への参加者数(H27年度3講座、44名) ・校内研修の参加人数及び教員満足度 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設講習数及び講習、説明会への参加者数(H27年度講習数3・参加数44名、就職指導説明会37名・面接指導説明会25名) ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数(H27年度1名) ・就職希望者内定率(H27年度89%) 	
<p>5 情報発信・広報活動の充実</p>	<p>(1) 情報発信の充実 ア HP、携帯連絡メール(桃通メール)、桃谷通信の内容充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア 学校説明会の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。 ・携帯連絡メール(桃通メール)を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイの有効活用 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一された内容の説明を行うため、説明会用スライド及び学校紹介用DVDの改善・充実。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科開設ページ100%(H27年度33%) ・HPへの年間アクセス数(H27年度14万6千回) ・携帯連絡メール(桃通メール)への登録件数と発信回数(H27年度642名61回) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションディスプレイの更新頻度(H27年度週1回) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価の向上(H27年度85%) 	